

令和4年1月5日
鳥取市保健所

令和4年度地域医療介護総合確保基金（医療）における東部圏域提案事業（案）

【事業対象となる保健医療圏】

東部保健医療圏

【事業の分類】

③医療従事者の確保に関する事業

【事業の実施主体】

鳥取県立中央病院

【背景にある医療ニーズ】

○現状

- ・東部圏域は令和3年1月の「医師数に関する調査」によると、病院の医師の充足率は外科系全体では県全体84.4%に対して東部圏域70.0%と低く、呼吸器外科（県84.8%、東部57.1%）、心臓血管外科（県86.5%、東部71.4%）は特に低い状況となっている。
- ・また、鳥取県医師確保計画における「診療科別の人口10万人対医療施設従事医師数」においては、医師総数では全国240.1人、県298.1人に対して東部226.9人と全国でも低く、内科のうち、消化器内科（全国11.2人、県11.6人、東部4.8人）、循環器内科（全国9.8人、県10.2人、東部6.9人）は特に医師数が少ない状況となっている。
- ・さらに、消化器内科では近年、高精度の内視鏡技術が求められており、内視鏡検査の主な担い手医師の負担は大きくなっている。

○課題・ニーズ

- ・不足する医師確保と医療技術の向上のため、臨床研修医の呼び込みや若手医師のスキルアップは必要であるが、臨床件数が少なくトレーニングの機会も限られることから、これらの取組の課題となっている。
- ・しかし、近年、人体に限りなく近くトレーニング効果の高い機器（シミュレーター）が開発され、これらの機器の活用によって臨床件数の不足が補われることから、機器整備に対する臨床研修医や若手医療従事者からの要望は強い。
- ・東部圏域の1つの医療施設において集中的にトレーニング機器を導入し、東部の医療従事者が自由に訓練できるシミュレーションセンターとして訓練環境を整備することは、経費的にも効率的な取組であり、また、東部の医療人材の充実を図るうえでも重要である。
- ・8月に開催された4病院長（当院、市立、日赤、生協）会議において、全病院共通の要望として挙げた事業であり、是非とも整備を実現させたい。

【要望事業の内容】

事業名：東部保健医療圏の医療従事者のためのシミュレーションセンター整備

事業内容：鳥取県立中央病院に設置したシミュレーションセンターに、種々の医療技術向上に資するトレーニング機器（シミュレーター）を備え、東部医療圏の医療従事者（医師、看護師、臨床検査技師等）が自由に訓練できる環境を整備する。

設置機器は、内視鏡トレーニングモデル（上部、下部内視鏡、気管支鏡等）、超音波トレーニングモデル（超音波機器、超音波内視鏡、血管、腹部、心臓、婦人科、体表面モデル）、内視鏡手術トレーニングモデル、看護師育成のためのトレーニングモデル（採血、点滴）等

【アウトプット指標】

- 臨床における臨床研修医等による医療手技訓練によって生じていた患者負担の減少
- 人体に近い機器（シミュレーター）の導入によって臨床件数の不足が補われ、医療手技習熟のための訓練機会が増加
- 東部の医療従事者に機器利用を開放することによって、医療従事者の訓練機会を増加

【トレーニング機器の活用計画】

- 各機器の減価償却費及び消耗品費等に相当する利用料を設定し、鳥取県立中央病院に設置したシミュレーションセンターで機器ごとの予約及び貸出の管理並びに請求業務を行う。

【事業費】

約5,000万円程度

【所要額の積算根拠】

心臓・腹部超音波検査トレーニングシミュレータ	14,000,000 円
汎用超音波画像診断装置	4,800,000 円
汎用超音波画像診断装置プローブ	980,000 円
CVC穿刺挿入シミュレータⅡ	260,000 円
CVCカテーテル挿入パッド2個組	53,000 円
末梢挿入中心静脈カテーテルPICCシミュレーション	162,000 円
DAMシミュレータトレーニングモデル	265,000 円
消化器内視鏡手技トレーニング用シミュレータ	14,400,000 円
消化器内科手技シミュレータ（ERCP、EUS、EMR/ESD モジュール）	9,600,000 円
点滴静注シミュレータVライン	120,000 円
装着式上腕筋肉注射シミュレータ	80,000 円